



自衛隊島根地方協力本部

事業内容

隊員の募集・採用、退職隊員の再就職・援助等

創業 昭和31(1956)年8月1日

代表者 1等陸佐 中畑 晶広

隊員 54名(男45名 女9名)

本社 島根県松江市向島町134-10

電話 0852-21-0015

採用エリア(勤務地)

島根県

採用担当者からあなたへ

自衛隊は、優れた教育システムにより、各人の素養に合わせた段階的な教育を行い、任務に必要な能力を付与しますので、定年まで成長を実感できる職場です。興味がある方はご連絡ください。お待ちしております。



募集課長 佐野 尚さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-21-0015

採用直通 E-mail

hq1-shimane@mod.go.jp

公式サイトはこちら



求人サイトはこちら



地元に戻り、定年まで 育児と仕事の両立を目指す

大学進学も視野に入れつつ、明確な目標を抱くことができずにいる中、海上自衛官として任務に就いていた2歳上の兄の姿がまぶしく映った。「海外を含め、仕事で各地に赴いている兄はとても視野が広くて。格好良く見えたいです」。兄とは違う陸上自衛官を志望。「泳ぎは得意じゃないし、航空自衛隊は全国各地に異動がある。将来は地元に戻りたかったの」と自然体の笑顔を見せる。

戦闘部隊を支援するために道を切り開く「施設科」に所属。重機でがれきや土砂を取り除いたり、津波で壊れた橋を作ったりするなど災害派遣でも活躍する部署だ。東日本大震災の時も被災地へ赴き、野口さんは炊事担当として後方支援を行った。「直接現場で動いたわけではないですが、自分も役に立っているんだと感じました」

京都や兵庫への転勤を経て2017年からは地元の出雲駐屯地に勤務。6歳と4歳の2児の母となり、現在は行政文書の管理などを担当する。「子どもが小さいうちは夜勤免除や看護休暇もあり、活用しています。最終目標は、定年まで育児と仕事を両立し続けることです」



陸上自衛隊出雲駐屯地
第304施設隊 文書陸曹
野口 絵美さん(41)



1 被災地で人命救助や生活支援などを行う「災害派遣」も、自衛隊の重要なミッションの一つ 2 食堂では、栄養バランスが取れた食事が提供される 3 基地内には理髪店や図書室、コンビニも 4 航空祭などで迫力ある2次元アクロバット展示走行をする「レッドクラブ」。チーム名の由来は、山陰特産のペニズワイガニだ

自衛隊島根地方協力本部

さまざまな分野のエキスパートが 日本の平和と独立を守る

59
LEADING COMPANY

多種多様な働き方が可能
ワークライフバランス実現

国の平和と独立を守るという使命の下、多彩なフィールドで活躍する自衛隊。国家公務員の約42%を占める24万人強の自衛官が、領土・領海・領空を守る「防衛・警備」、災害時の捜索や救助、警備などを行う「災害派遣」、海外での「国際平和協力活動等」――の三つの大きなミッションを担っている。

各分野のエキスパートで構成される自衛隊の働き方は驚くほどに多種多様だ。海上自衛隊の護衛艦で乗員に食事を作る調理員や、航空自衛隊基地での火災や航空機事故の際に救助・消火活動を行う消防、宇宙空間のゴミを監視する宇宙作戦隊などもある。中畑本部長は、「自衛隊は有事対応型の組織のため、普段から自隊で何でもできないといけません。ですから仕事の種類は、民間企業や他の公務員をほぼ網羅していて、本人の適性・能力・希望に合った仕事が必要見つかります」と話す。

勤務体系もさまざま。北海道から沖縄まで全国各地への配置がある航空自衛隊に比べ、エリアごとで採用される陸上自衛隊はエリア内の配置が多い。地元で働きたい人、各地を飛び回りたい人、どちらのニーズ

にも応えられる職場でもある。

割合こそまだ全体の8%程度と少ないが、女性自衛官の数も増加している。マッチョな、肉体系の仕事が多いイメージだが、デスクワークや専門的な業務も幅広くあり、結婚や出産を経ても任務を継続している女性も多い。駐屯地内や艦艇内の女性専用の居住スペースが整備されているのはもちろん、駐屯地に隣接した庁内託児所、災害派遣時など緊急登庁時の子ども一時預かりをはじめ、自衛隊任務の特殊性に対応した制度も各種整えられている。

意外と知られていないのが、当直勤務はあるものの、土日祝日は基本的に休みであること。大災害が発生した際は長期間被災地に派遣されることもあるが、現地でも交替で休みを取り、派遣終了後は休暇を取得できる。独身隊員らが暮らす寮では食提供され、住居費も自己負担がないため、貯金しやすいという声もよく聞く。「隊員が任務に専念できるように処遇は安定しています。また男女共に働きやすい職場環境とするためワークライフバランスやハラスメント防止に取り組んでいます」と中畑本部長も強調する。

時代の変化に対応し、多種多様な仕事を男女が共に力を合わせて取り組む、それが自衛隊だ。



航空自衛隊高尾山分屯基地
第7警戒隊監視小隊警戒管制員
杉本 和海さん(25)



昼夜を問わず、緊張感を持って 領空をレーダー監視

「航空自衛隊って戦闘機に乗っているイメージしかなかった」と苦笑する杉本さん。実は航空機に搭乗する隊員の方が少数派で、杉本さんたちは24時間365日交代で領空を監視し、接近・侵入してくる航空機などをレーダーで監視する「警戒管制」の任を負う。「空には多数の航空機が飛んでいて、最初は驚きました」。敵味方識別装置やフライトプランの有無などを基準に不審な航空機を見つけ、必要に応じて対領空侵犯措置を実施。「素早く適切に判断しなければ、国民に被害が及ぶ可能性もあり、何年経っても緊張します」

幼い頃の夢は消防士。小学校の卒業直前に発生した東日本大震災で、陸上自衛隊が被災者をゴムボートで救助している様子を見て、憧れの対象が変わったという。高校まで一度も転校を経験したことがなかったが、入隊後は階級・職務に応じて行われる教育訓練や所属基地以外での臨時勤務が少なく、「コミュニケーション力が上がった気がします」と話す。昨年末、航空自衛官の同僚と結婚。今夏には2人同時に沖縄へと異動した。「情勢がホットな地。一刻も早く慣れるよう頑張ります」